

柳宗玄著作選

[全6巻]

八坂書房

造本・体裁 菊判 クロス・カバー装 本文14Q縦一段組
各巻平均300頁(うちカラー32頁前後)
予価 各巻5040円(本体4800円)・分売可

第1回配本◎第6巻

サンティヤーゴの巡礼路

2005年1月下旬刊行

予価5040円(本体4800円) 300頁予定 ISBN4-89694-754-1

現地をくまなく踏破しての実見と、往時の史料とを往還しつつ、ロマネスク時代の巡礼の姿を浮かびあがらせた名著。今回新たに、貴重な史料として名高い『サンティヤーゴ巡礼案内書』の全訳を付して一巻となす。

第2回配本◎第5巻

ロマネスク彫刻の形態学 「みづゑ」誌上の好評連載を再編して収録!

2005年5月下旬刊行予定、以下続刊

八坂書房 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-11 TEL 03-3293-7975 FAX 03-3293-7977
http://www.yasakashobo.co.jp E-mail: info@yasakashobo.co.jp

*ご注文は、なるべく下の注文書をご利用の上、お近くの書店までお願いいたします。

書店印

注文書

八坂書房刊『柳宗玄著作選』全6巻を()セット申し込みます。
上記のうち第()巻を()冊申し込みます。

●お名前

●電話

●ご住所

実物を見ること、
原物と会話すること——。

半世紀以上にわたり、
西欧はもとよりオリエント、東アジアの現地にまで
繰り返し足を運び、
実見に基づく研究によって、
造形表現の根源を問い続けてきた
炯眼の美術史家の原点を振り返る、
初の著作選、いよいよ刊行開始!

【本著作選の特色】

- 多岐にわたる研究対象の中核をなす、西洋古代・中世美術史関連の主要著作を精選。
- 各巻とも初出時とは図版構成を一新し、著者自身の撮影による貴重な図版を多数収載。
- 再録にあたっては各巻とも加筆を仰いだほか、一部に未発表の草稿や新稿を併録、内容に万全を期した。
- 大型活字を採用した、読みやすい本文組版。

『柳宗玄著作選』の刊行に際して

前川誠郎

著者の目出度い米寿を機として『柳宗玄著作選』全六巻が刊行される運びとなった。柳君の六十年をはるかに越える美術史家としての活動は、聖なるものの美を求めての東西をめぐる巡礼であり、どの旅からも常に豊かな家苞がもたらされたが、今回の選集は対象を西洋の中世美術に絞って選りすぐった一きわ見事な六顆の大きな帆立貝、否、真珠である。

わが国の西洋美術史研究は、一九二〇年代に始まり、先ずルネッサンスと古代ギリシャ・ローマの美術へと向かい、三〇年代に入って中世や近現代美術へも視野が広がって行ったところで、第二次大戦による長い中断を余儀なくされた。柳君は戦後に再開された研究の第一世代の先頭を切り、爾来今日までわが道を走り続けて米寿の齡に達したのである。

自身の足で歩き自分の眼で見、他者の意見に煩わされることなく独自の考察を進める。その際レンズを通して得られた画像を旅のドキュメントとして残すことを忘れない。今日ではすでに一般に定着した観のあるこのタイプの美術史家の出現は、柳君をもって嚆矢とするのである。巡礼は即ちまた創作行為でもあるのだ。

このような彼の姿勢は選集の第六巻『サンティアゴの巡礼路』(第一回配本)から端的に窺い知ることができる。今回図版をすべて著者自らが撮影したものと取り替え、また二種の古い案内記を訳して添えたのも、実に周到な配慮である。

以上乞われるままに所感を記し、交友六十余年となる柳君のさらなる加餐を切に願う次第である。
(元国立西洋美術館長)

第一巻 西洋の誕生

太陽神キリスト／聖樹より十字架へ
幻の「木の文化」／生命の泉／水に生きるもの
死者の舟・生者の舟／羊の国にて／巨石の伝統
山岳信仰の流れ／十字文の世界／謎の組紐文
聖母の誕生／古代彫刻の終焉／不肖の像

第四巻 ロマネスク美術

総説 象徴芸術の大時代
第一章 天の像
第二章 地の像
第三章 神の家
第四章 素材・機能・造形

第二巻 東方キリスト教美術

総説 東方世界の多元化
第一章 初期キリスト教美術の形成
第二章 コプト美術とその周辺
第三章 アジア的キリスト教美術の諸相
第四章 ビザンティン美術とその伝統

第五巻 ロマネスク彫刻の形態学

聖母／空想の怪物／天使と悪魔
植物／キリスト／鳥獸
庶民の生活／抽象の形／謎の顔
人像円柱／柱頭の福音書 ほか

全6巻の構成

第三巻 初期ヨーロッパ美術

総説 ヨーロッパ美術の二潮流
第一章 ケルトの伝統とその新展開
第二章 ゲルマンの伝統とその新展開
第三章 地中海美術の変貌
第四章 カロリング朝とヨーロッパ美術の形成

第六巻 サンティアゴの巡礼路

第一章 聖ヤコブスの聖地へ
第二章 巡礼に旅立つ人々
第三章 ガルシヤヤを指して
第四章 さいはての大聖堂
終章 中世の巡礼たち
全訳『サンティアゴ巡礼案内書』

著者略歴

- 一九一七年(大正六年) 東京に生まれる
- 一九三九年(昭和十四年) 第一高等学校卒業
- 一九四二年(昭和十七年) 東京大学法学部法律学科卒業
- 一九四五年(昭和二十年) 東京大学文学部美学美術史学科卒業
- 一九四七年(昭和二十二年) 東京大学文学部特別研究生
- 一九五二―五三年 フランス政府給費生としてパリ留学 (エコール・デ・シャルト)
- 一九五三―五五年 ベルギー、ルーヴァン大学給費生
- 一九五七年(昭和三十二年) 東京芸術大学美術学部助教授
- 一九六二年(昭和三十七年) フランス政府招聘による渡航研究
- 一九六四―六六年 文部省給費により、東京芸術大学より カッパドキヤ調査団を組織(全三回)
- 一九六八年(昭和四十三年) お茶の水女子大学文教育学部教授
- 一九八二年(昭和三十七年) 同右を定年退職、名誉教授となる
- 武蔵野美術大学教授
- 一九八八年(昭和六十二年) 同右を退任

主要著作一覧

- 『アミヤン大聖堂』座石宝美術叢書2、座石宝刊行会、一九五七
- 『キリスト 美術にみる生涯』現代教養文庫、社会思想社、一九五九
- 『フランス美術』世界美術大系15、講談社、一九六一
- 『太陽と洞窟の谷』朝日新聞社、一九六七
- 『カッパドキヤ トルコの洞窟修道院』鹿島出版会、一九六七
- 『秘境のキリスト教美術』岩波新書、岩波書店、一九六七
- 『ビザンティンの世界』世界の文化史蹟11、講談社、一九六九
- 『ロマネスク・ゴシックの聖堂』世界の文化史蹟12、講談社、一九七〇
- 『西洋の誕生』新潮社、一九七一
- 『ルオー』現代世界美術全集12、集英社、一九七二
- 『ロマネスク美術』大系世界の美術11、学習研究社、一九七二 (毎日出版文化賞受賞)
- 『初期ヨーロッパ美術』大系世界の美術10、学習研究社、一九七四
- 『東方キリスト教美術』大系世界の美術9、学習研究社、一九七五
- 『サンティアゴの巡礼路』世界の聖域16、講談社、一九八〇
- 『岩波美術館』全24冊のうち「天と地の賛歌」ほか8冊、岩波書店、一九八一―八七
- 『ロマネスク・東方キリスト教』世界の建築4、学習研究社、一九八三
- 『虚空散華』『黒い聖母』福武書店、一九八六
- 『ルオー・キリスト教聖画集』学習研究社、一九八七
- 『かたちとの対話』同時代ライブラリー、岩波書店、一九九二
- 『十二支のかたち』同時代ライブラリー、岩波書店、一九九五
- 『色彩との対話』岩波書店、二〇〇二